

有田工業高校の特徴や誇れるもの

本校は、古くから焼き物の町として有名な有田町にあり、日本初の陶磁器産業技術者養成機関「勉脩学舎」を源とし、今年で開校118年目となる歴史と伝統のある学校です。

工学系の電気科・機械科と工芸系のセラミック科・デザイン科をもち、さらに定時制課程を併設した全国でも数少ない工業高校です。また、県内で唯一、ウエイトリフティング部を持ち、毎年、九州・全国大会で実績を残しています。

初代校長納富介次郎氏の縁で石川県立工業高校、富山県立高岡工芸高校、香川県立高松工芸高校と生徒会や生徒作品の交流を続けています。



地元小学校との連携

「陶芸交流授業」は、セラミック科・デザイン科の生徒が地元の小学校へ出向き、高校で学んだ知識や技術を活かして、焼き物の指導補助を行うものです。「オリジナルの器制作」や「恐竜制作」など作品制作のお手伝いをしていく中で、焼き物制作の楽しさを地元の子どもたちに伝え、地元産業の継承に貢献することを目的に行っています。



学校所在地:佐賀県西松浦郡有田町桑古場乙2902
 連絡先:0955-42-3136
 生徒数:591名

有工ふるさと検定

平成19年度より3年生を対象に「有工ふるさと検定」を実施しています。これは、有工独自で問題集を作成、その中から出題し、合格した人を表彰するというものです。問題集は、佐賀県や市・町に関すること、学校や有田焼に関することなどの100問が掲載されたものです。卒業を前に、ふるさとのことを知り、その良さに気づいてもらいたい、大切にしてもらいたいという思いで実施しています。



(H27年度 表紙)

地域学習の日

毎年、「地域学習の日」を設け、1年生は「有田の歴史を学ぶ」、2年生は「有田の産業を学ぶ」をテーマに掲げ、各クラスごとに生徒自身で学習コースを企画し、旧跡や窯元などを回って、地域との関わりを深め、理解する機会としています。



(柿右衛門窯の見学)

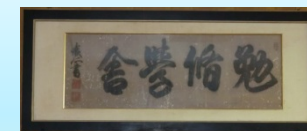
学校の誇れるものの紹介



30km全校マラソン大会



「母と子」(百武兼行作)



ありすがわみやたるひとしんのう へんかく
 有栖川宮熾仁親王扁額

有田工業高校の特徴や誇れるもの

- ・有田町は、古くからやきものの町として世界的に有名で、毎年有田陶器市には4kmに渡り約500の店が立ち並び100万人が訪れます。2016年は有田焼創業400年を迎え、数多くのイベントが行われます。
- ・有田工業高校は、今年で開校117年目となる伝統校で、初代校長納富介次郎氏の縁で石川県立工業高校、富山県立高岡工芸高校、香川県立高松工芸高校と毎年生徒会役員や生徒作品の交流を行っています。
- ・デザイン科やセラミック科というユニークな学科を有し、著名な陶芸家やデザイナーを数多く輩出しています。中でも昭和60年デザイン科卒業生吉岡徳仁氏は、2007年ニューズウィーク日本版「世界が尊敬する日本人の100人」に選ばれるなど世界で活躍しています。平成27年佐賀県立美術館リニューアル記念として「トルネード」などの代表作が展示されました。また、京都市将軍塚青龍殿にはガラス張りの茶室「光庵」が平成28年4月まで展示されています。



地元小学校との連携

有田町内の小学校で行われる焼き物教室に毎年セラミック科やデザイン科の生徒が訪問し、高校で学んだ知識や技術を活かして、小学生の「オリジナルの器づくり」や「かっこいい恐竜づくり」などのお手伝いをしながら陶芸の楽しさを伝え、地元小学生との交流を深めています。



学校所在地:佐賀県西松浦郡有田町桑古場乙2902
 連絡先:0955-42-3136
 生徒数:586名

内田天満宮(武雄市)の天井画復元



1918(大正7)年に本校図案絵画科(現デザイン科)の生徒たちが天満宮に奉納した約50cm四方220枚の天井画を現在のデザイン科の生徒たちの手で復元しました。



風雨にさらされほとんど原型をとどめていないものもあり難しい作業でしたが、100年前の先輩達の筆遣いを感じながら、100年後の後輩達へつなぐ思いをこめて完成させました。

地域清掃活動(全日制・定時制)

全日制では年3回、毎日生徒がお世話になっている有田駅から学校までの通学路周辺の清掃を生徒会を中心に行っています。



定時制では毎年有田陶器市終了後の平日夕方、全校生徒が学年毎に分かれ、陶器市会場となった道路や有田駅周辺の清掃活動を行っています。

学校の誇れるものの紹介



30km全校マラソン(中央)
 創立110周年記念モニュメント(左)
 約束の器 有田の初恋(右)

